



広報 かわの

令和4年6月20日 第9号

河曲小学校体育館 建替えに関する検討結果の報告会

令和4年3月29日、地区市民センターで「河曲小学校体育館の建替え（改築）」の件について、教育政策課から下記の五点を主な内容とする検討結果の報告会がありました。今後は大枠この線に沿って、地元との協議のもと、要望も加味しつつ改築工程が進展していくことになります。

- (1) 令和4年度（4～6月）に行う体育館の耐力度調査の結果において、国の補助対象（危険改築）かどうかを確認したうえで、改築に向けて学校、地域と具体的な協議を行っていく。
- (2) 現段階において、令和7年度に体育館の建替え、令和8年度に既存体育館の解体、渡り廊下の建設、外溝・駐車場の整備を予定していきたいと考えている。

(3) 体育館の建替えにあたり、現状では、ラフタークレーン、杭・杭打機を運ぶ大型トレーラー等の大型車両の進入が難しいことから、進入路の確保が必要なため、民地の一部の借地または購入を検討していく。

(4) 工事中は、大型車両の通行により、安全性や振動・騒音等で地域にご迷惑をおかけするため4つの進入路（案）について、各案の利点と課題を説明し、地域の意向を確認していきたい。

(5) 進入路の確保に必要な民地の借地または購入の手続きがスムーズに進むことで、体育館の建替時期が、令和7年度から令和6年度に1年前倒することも視野に入れて検討していきたい。

なお席上、萩会長より、着工時期の前倒し等に向けては、児童の便益に資することであり、協議会としても最大限の協力をしていく旨の発言がありました。



河曲小学校校長 人事異動

地域とともに 河曲小学校校長 中野 誉

4月から再び河曲小学校でお世話になることになりました。どうぞよろしくお願いいたします。



3年前に教頭として赴任してきた時、河曲小学校は河曲地区地域づくり協議会の皆様をはじめとする地域の方々に、強く支えられている学校であることを実感いたしました。「子ども達のためなら・・・。」と、学校への支援、協力を惜しまない地域の方々の力に支えられて、様々な充実した教育活動ができていたからです。校内の除草作業や樹木の伐採作業等の学校環境整備や登下校の見守り活動など、力強いご支援をいただいておりますこと、深く御礼申し上げます。

地域とともにある学校として、河曲小学校が地域の皆様を集っていただく核となっていけるよう、今後も努力して参りますので、ご支援・ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

1年を振り返って 鈴峰中学校校長 三浦洋子

河曲にお世話になりました1年はまさに地域の力を感じる1年でした。振り返ると、いつも学校には地域の方の温かいお力添えがありました。雨の日も雪の日も子どもたちの登校を見守ってくださる方々の笑顔と挨拶の声からスタートする毎日でした。多くの方々にお助けいただいたの除草作業で校舎周辺はとてもさっぱりしました。夏のラジ体操では、親子で楽しく参加できるよう楽しいゲームをご用意くださいました。防災の日にはお話とともに非常食をいただきました。更に昨年度は校庭の大木を伐採していただいたり、プールサイドの土手に防草シートを張っていただいたりもしました。防災についてともに考える機会もいただきました。いつも皆様が学校のことを心にかけてくださっているのを感じる1年でした。個人的なことになりますが、私の生まれ育った河曲という地域の温かさ、素晴らしさを今になって再確認する機会をいただいたことは何物にも代えがたい財産となりました。心より感謝申し上げます。

河曲の子どもたちが皆様方の背中を追って、いつかは地域を担う大人になってくれることを心より願っております。

河曲地区地域づくり協議会 令和4年度役職者等一覧

役職	氏名	団体	役職	氏名	団体
会長	萩 義彦	河曲地区自治会総代会顧問	委員	松永裕道	十宮宮の前自治会長
副会長	田中英敏	河曲地区防犯委員会委員長	委員	成松茂治	東十宮町自治会長
	同	神戸交番連絡協議会委員	委員	永戸 薫	西十宮町自治会長
	同	三重県安全安心町づくり地域リーダー	委員	杉野友美	南十宮町自治会長
副会長	松林嘉熙	須賀町自治会顧問	委員	吉永利子	北十宮町自治会長
会計	中川 明	河曲地区体育委員会会長	委員	吉田眞澄	中十宮町自治会長
事務局長	松林嘉熙	須賀町自治会顧問	委員	藤村聡哉	ラウムズ鈴鹿かわの自治会長
事務局	湯川伸代	事務局員	各種団体	中野 誉	河曲小学校長
監事	林 秀樹	河田町自治会長	各種団体	藤澤紗希	河曲小学校PTA会長
監事	豊田 守	河曲地区パトロール隊隊長	各種団体	高山 剛	河曲小学校PTA会計
委員	原田孝樹	野辺町自治会長	各種団体	木村元彦	神戸中学校長
委員	山際 博	竹野町自治会長	各種団体	平子正人	神戸中学校PTA会長
委員	兼丸良政	山辺町自治会長	各種団体	野田栄一	河曲地区民生児童委員会会長
委員	田中 篤	木田町自治会長	各種団体	富田央彦	河曲青少年育成町民会議会長
委員	西村和弘	大谷町自治会長	各種団体	西村善行	鈴鹿市消防団河曲分団長
委員	桐生悦夫	国分町自治会長	各種団体	酒井清春	河曲地区農業委員会会長
委員	遠藤義光	十宮町自治会長	参与	武野菊生	
	同	河曲地区自治会総代会長	参与	白塚山隆彦	
	同	河曲公民館運営委員会委員長	参与	棚瀬研一	
委員	松林 弘	須賀町自治会長	参与	松本衛一	



ファミリー ヒストリー

神戸郵便局開局150年

1872 ～ 2022

81年間 弥生なかばの頃、中学時代の親友内田君の弟の英昭さんから『広報かわの』の記事を150年というキーワードで綴るのなら、そろばんと同じく、近代日本の郵便制度の一翼を担って伊勢神戸に郵便局が開局してから今年で150年になります」という話をお聞きしました。

明治開化期、前島密による郵便制度が発足したのが明治4年(1871)。以来この令和4年(2022)まで、郵便電信電話事業の優秀さが世界を牽引する日本を育ててきたことは間違いありません。

続けて英昭さんは「そのうち、発足翌年の明治5年(1872)から大正を経て太平洋戦争、そして戦後の昭和28年までは、南十日市の私の家の者が5代81年にわたって特定郵便局としての神戸郵便局の看板を受け継ぎ、地域の皆様へのお力添えをしておりました」とのこと。

郵便取扱所 ではなぜ伊勢神戸の地に郵便局が出来たのでしょうか。

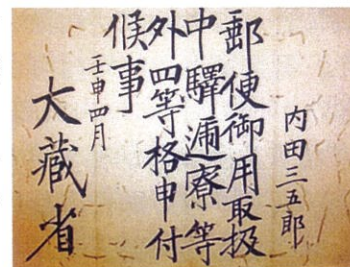
江戸時代、通信手段は伝馬、飛脚という形で一部の人たちが利用していましたが、そのネットワークを全国へ拡大しようとした明治政府の一大事業が郵便の始まりです。明治4年に郵政の父と称えられる前島密の発議で郵便事業が開始されました。当初、東京、京都、大阪の三府に政府直轄の郵便役所が設置され、大動脈であった東海道の各宿場には、江戸期、宿の間屋場が手紙の中継ぎ所であった縁で、郵便取扱所が置かれました。市内で最初の郵便取扱所は石薬師と庄野でした。

その後、財政が極めて脆弱だった明治政府は地元の名望家に土地と建物の一部を無償で提供してもらい、郵便取扱所を設置しました。維新政府の新規事業の地域における要となる施設ですが、町の名士旧家に事業を全面特定委託すれば新規のインフラ投資整備は不要です。その知名度と信用力は絶大です。葉書を書状集箱に投函するにあたって利用者に不安は生じません。

明治5年4月2日、伊勢街道筋の河曲郡神戸十日市町に郵便取扱所が開所しました。そこは江戸期からの地主であり、また「加田屋」として知られた商家でもありました。当主は五代目34歳の内田三五郎。場所は真宗高田派神戸別院、いわゆる御坊さんに近く、3年前の天皇伊勢御巡幸の砌には御晝餐所本陣になったことから、河曲や神戸のだれしも地理不案内にはなりません。

こうした経緯により、郵便網は住民の信頼を背に極めて短期間に神戸、白子をはじめ全国に広がり、郵便制度は急速な普及を遂げました。

写真は三五郎（このあと内田篤義と改名）が明治5年4月に拝受した辞令です。「郵便御用取扱中驛遞寮等外四等格申付候事 壬申四月 大蔵省」とあります。この当時、通信省は未設で郵便事業は大蔵省の管轄でした。



間取り 神戸郵便局の看板を掲げた局舎の間取りは図のとおりです。元来、宿場町の商家ゆえ、街道に面したひと間が店舗、その奥は住居ですが、篤義は母屋の半



分を局舎仕様に改めました。間口四間半、西向き五尺玄関口から奥行四間の十八坪。入って左手に窓口、右手に小包置場。その奥が集配人待機所。土間の向かいが事務室で、そこには局員の行動指針として藤堂凌雲揮毫の局是「慎幼義終」の扁額が掛かっていました。土間の奥は篤義の居宅でした。



防犯対策は万全。すなわち両隣とは一枚隔壁、伊勢街道に面した表戸は全て格子戸、玄関は間口五尺の引き違い障子戸ながら夜間はツシから下ろ



し大戸。屋根からの侵入に備えて中庭の屋根に忍び返し、裏の庭に面した処は二重止め具付の雨戸、出入口は大戸仕様、そして貴重品を収納するため床下に隠し収納庫。

ここで篤義は妻ちゑ、娘いと夫婦と力を合わせ、五十路を迎えるまで新規郵便事業に全力を注ぎましたが、惜しい哉、のちに家を継ぐ孫の克義や英男、滋の顔は見ることなく急逝されました。

電話取扱 明治21年6月、内田英三郎が2代目局長に就任。のちに町会議員、郡会議員など歴任して、郵便のみならず行政や自治にも明るい人物で、地元に着した運営をしたとのこと。その局長にとっての画期が明治23年の電話局併設でした。電信電話取扱を認可されたのです。そのため機材が増えて十日市84番屋敷の現局舎では手狭となり、南隣の別棟で神戸局を立ち上げました。

写真は「神戸郵便電話局」開局記念の日、国旗を背に官服姿の英三郎が写り、集配人の半纏の襟には神戸郵便局の文字が読み取れます。発足当初の電話加入者は16名でした。また、電報配達で鈴鹿郡の深溝とか伊船まで出かけ、局に戻るのは夜中、など稀ではなかったそうです。



外灯、電信柱、荷車も写り込んでいます。左端には「電話取扱」「取扱時刻」など新規業務の看板と開局記念式の招待客に向けて「来賓ノ方ハ別院ニテ御休憩」致されたき旨の案内文が見えます。公衆電話、電信室が新設されました。

新規事業の電信電話は徐々に近傍各地に広がっていきましました。英三郎が甲斐の前川定吉と昵懇になった契機がこれでした。大阪堂島の日々の相場の動きを鈴鹿で確実に押さえない前川を、英三郎はしっかり支えたようです。

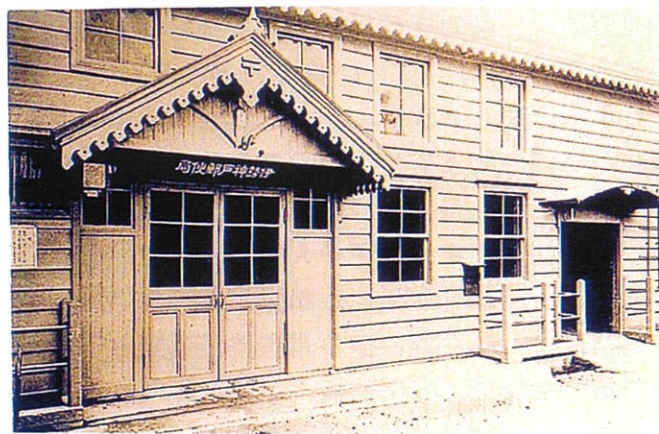
横須賀水雷団 明治40年1月、海軍横須賀水雷団

所属の松林瀧次郎から須賀の村田豊吉宛に年賀挨拶状が来しました。書状は17日午前9時～11時に横須賀局が受付け、18日口



便で伊勢神戸局まで届き、2銭では料金不足と加印付きで配達されました。瀧次郎は日露戦争従軍時、東郷平八郎指揮下で巡洋艦八雲にあって軍功をあげ、勲七等功七級に叙され、凱旋時に須賀の阿自賀神社に八雲の砲弾二発を奉納しています。書状は帰郷後、横須賀水雷団に復務してからの投函で、恭賀新禧と記した名刺が封入されていました。豊吉は何銭不足分を払ったのでしょうか。

郵便切手貯金 大正4年、大正モダンの風がそよいでいた頃、局舎は洋風になり、局名も「伊勢神戸郵便局」と改変。また大禮記念や同8年の大戦終結平和記念を機に、子供達には美しい郵便切手貯金が身近な貯蓄法として普及。局舎が整い、業務も郵便、電信電話、貯金と三本立てとなって、神戸郵便局は官でありながらすっかり庶民の生活の一部になりました。



旭進珠算塾 大正14年、三日市の旭進速算学校から須賀区長（自治会長）にあてた三重神戸局消印で切手別納郵便の封書が届きました。第8回受講生募集の趣旨と、事情ご理解のうえ区長からも区内広報などにご高配賜れば誠に幸いと依頼状でした。



5 代目 英昭さんの祖父克義が3代目、次いで克義の弟英男（浜中家に入り弥三郎を襲名）が若松から通勤して4代目を全うしました。そして昭和16年、名古屋通信局講習所の先生であった兵次が結婚を機に5代目の神戸郵便局長を継ぎました。兵次は戦中戦後の未曾有の混乱期にあって、慎みを以て瑕疵なく信を配る姿勢を貫きました。

俘虜特別葉書 昭和22年5月5日、神戸の郵便局員が須賀町の松林すゞ子に一通の俘虜特別葉書を届けました。ソ満国境の東安省斐徳に駐屯中の昭和20年8月9日、ソビエト軍の侵攻を境に音信不通となっていた連れ合いの松林優段列長からの「元気である」と記した自筆の葉書でした。

じつは終戦後の昭和21年11月、ソ連政府は各収容所の、いわゆるシベリア抑留兵に葉書を支給し、留守宅宛に居所は伏せたまま安否のみ知らせる機会供与を措置しました。それがこの日、留守宅に届いたのです。半年前の書面とはいえ、俘虜ながらも書いた時点ではどこかで元気に過ごしていたことが判りました。真っ暗の二年余を経て、この国際情勢下、海を挟んだ彼我の郵袋の送致と受取、そして確かな神戸局の配達、が留守宅にかすかな光をもたらしたのです。

昭和23年5月20日、すゞ子は確証を得ます。沿海州のチグロワヤ収容所から一足先に三重郡大矢知村に帰還していた兵隊仲間が須賀を訪れ、2週間前の5月7日まで一緒にいた、と伝えたのです。

5ヶ月後の昭和23年10月12日、チグロワヤでは復員予定者名簿が確定し、松林段列長に帰還命令が発されました。そして13日にナホトカに向けてチグロワヤを汽車出発、19日に復員船の「信濃丸」に乗船、21日に舞鶴港に接岸しました。

段列長は昭和16年6月の関東軍特別演習への召集以来8年ぶりに祖国の土を踏むことが出来ました。その面影もないほど痩せ細っていた段列長でしたが、須賀からすゞ子が持参した重箱詰めぼた餅は、その場で全部おなかに納まったとの由。

鈴鹿郵便局 昭和28年夏、郵政事業の拡充のため、特定郵便局を廃し普通郵便局を開設という流れの中、「伊勢神戸郵便局」が7月31日に廃局、翌8月1日に東海郵政局管轄下「鈴鹿郵便局」が六郷川沿いの神戸北新町新庁舎で開局し、新局長には内田兵次前伊勢神戸郵便局長が就任しました。



新体制に前役員が再登板という異動ですが、これは実は神戸、河曲、飯野、玉垣など地域あげでの推薦兼陳情が功を奏した人事でした。片山武夫鈴鹿市会議長が発起人となり、田中ゆわ河曲婦人会会長はじめ近隣の500余名の署名を以て「手腕力量と篤実は萬人の認むる処」として内田局長を鈴鹿郵便局の初代局長に推薦する旨、斎藤信一郎名古屋郵政局長あてに陳情書が提出されたのです。地元の方々に支えられ、愛され、親しまれてきていた伊勢神戸郵便局ならではの動きでした。

英昭さんによれば、その頃は写真の庁舎にあって河曲生れの武野辰治郎、武野久六、川北金次、鈴木秀政、前川専太郎、村田恒雄ほか多くの局の皆さんにお世話になっていたそうです。

感謝 聞き書きが終わる際、英昭さんは「篤義はじめ5人を思い出す機会を与えて下さった関係者の皆様、町の小さな郵便局を愛して下さった地元の皆様、ご縁をいただき有難いの一言です」と語り、改めてご先祖様に深く感謝してみえました。とはいえ今回の語りはファミリーヒストリーであるとともに、みんなに神戸や河曲など地元を振り返る機会を与えて頂いた意味あいから地域史＝エリアヒストリーでもありました。こちらこそ感謝のほかありません。

通算85年 なお、内田局長は昭和32年に鈴鹿郵便局から津郵便局に異動になりました。結果、内田家は当地域の郵政事業に通算85年の長きにわたり寄与されてきたのでした。また北新町庁舎は昭和50年に閉局、新たに西条新庁舎で鈴鹿郵便局が発足、現在に至っています。

慎幼義終：慎み幼ければ義終わる
段列長：兵站の責任者



令和4年度河曲地区地域づくり協議会 予算書 令和4年4月1日～令和5年3月31日

収入の部

項 目	
前年度繰越金	0
市一括交付金	3,080,000
基本額	2,180,000
事務局費	900,000
小計	3,080,000

項 目	
前年度繰越金	290,488
考古博物館除草	580,000
委託料 120,000×4回	480,000
処分料	100,000
河曲駅自転車整理事業	103,188
902×104日×1.1	
雑収入	100,000
河曲地区自治会総代会	100,000
小 計	1,073,676

支出の部

項 目	
地域づくり協議会補助金	3,080,000
運営費	1,620,000
各種団体への後援	660,000
防災訓練啓発品	150,000
学校運営協議会	20,000
公民館運営委員会	50,000
体育委員会	50,000
東日本大震災の日	170,000
広報誌発行	200,000
備品購入費	100,000
予備費	20,000
印刷代	2,000
通信運搬費	8,000
食糧費	140,000
歴史公園開園記念事業	10,000
竹野ルミナリ工後援	40,000
役員報酬	560,000
各種団体へ一括交付	354,000
公民館運営委員会	143,000
体育委員会	63,000
青少年育成町民会議	900,000
事務局費	712,800
事務従事者謝礼 2,700円×264日	96,000
インターネット・電話使用料	91,200
事務用品	
小計	3,080,000

項 目	
考古博物館除草	500,000
弁当、機器借用料、消耗品	400,000
処分料	100,000
河曲駅自転車整理事業	92,892
山辺町老人会 812×104日×1.1	
予備費	480,784
予備費	470,784
慶弔費	10,000
小 計	1,073,676

※予算不足のときは、各科目の流用を認める

新型コロナ 市内月別発生件数
令和2年3月1日～令和4年5月31日

地区市民センター・公民館 職員異動紹介

日頃お世話になっている河曲地区市民センター・公民館の職員の方で、このたび転勤された方、これからもお世話になる方、そして新たに河曲へ来られた方を紹介致します。

○ 玉垣地区市民センター

別府恵理

この度、玉垣地区市民センターへ異動になりました。河曲地区では8年間という長きにわたり、多くの出会いや貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。とても楽しく仕事をさせていただき、充実した毎日を過ごすことができました。

新しい職場でも、河曲で培った経験を活かし、前向きに業務に取り組んでいきたいと思ひます。

○ 河曲公民館主事補

麻生美和子

令和3年3月より河曲公民館の主事補としてお勤めさせて頂いております麻生です。公民館のお仕事はこの年齢になって初めての経験ですが、日々、河曲の方々の暖かさに励まされております。

まだまだ未熟者ですが、皆さんにお教えいただいて成長していけたらな、と思っております。河曲地区の文化や歴史などもひとつずつ学んで行ければ幸いです。どうかご指導よろしくお願い致します。

○ 河曲地区市民センター・河曲公民館

宮崎夢路

令和4年3月31日に定年を迎え、また新たに4月1日からは再任用職員として河曲地区市民センター・公民館でお世話になります宮崎です。

皆様のお役に立てますよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

地域づくり協議会 令和3年度事業実施報告

- 03.04.01 JR 河曲駅自転車駐輪場整理業務開始
- 03.04.21 役員会開催
- 03.05.― 地域づくり協議会総会（新型コロナ感染防止のため郵送書面による総会とする）
- 03.05.22 地区環境整備事業 第1回草刈り（博物館、河曲小学校駐車場、及び神戸中学校水路周辺）
- 03.06.20 広報誌「かわの」第5号発行
- 03.07.17 地区環境整備事業 第2回草刈り（同上）
- 03.07.31 河曲小学校夏休みラジオ体操を共催
- 03.08.07 同上 夏休みラジオ体操を共催
- 03.08.16 役員会開催
- 03.09.20 広報誌「かわの」第6号発行
- 03.10.13 役員会開催
- 03.10.16 地区環境整備事業 第3回草刈り（同上）
- 03.11.14 河曲地区一斉サテライト型防災訓練
- 03.12.20 広報誌「かわの」第7号発行
- 03.12.22 河曲地区防災計画作成会議開催
- 04.01.31 役員会開催
- 04.02.19 地区環境整備事業 河曲小学校樹木剪定
- 04.03.11 河曲小学校防災訓練 物資補給支援で協力
- 04.03.20 広報誌「かわの」第8号発行
- 04.03.26 考古博物館除草・神戸中学校周辺除草

地域づくり協議会 令和4年度年間事業計画

- 04.04.01 JR 河曲駅自転車駐輪場整理業務開始
- 04.05.21 地区環境整備事業 第1回草刈り（博物館、河曲小学校及び神戸中学校周辺）
- 04.05.26 地域づくり協議会年次総会
- 04.06.20 広報誌「かわの」第9号発行
- 04.07.― 地区環境整備事業 第2回草刈り（同上）
- 04.07.30 河曲小学校夏休みラジオ体操を共催
- 04.08.06 同上 夏休みラジオ体操を共催
- 04.09.20 広報誌「かわの」第10号発行
- 04.10.― 地区環境整備事業 第3回草刈り（同上）
- 04.10.16 体育委員会主催河曲スポーツフェスタを共催
- 04.10.29 考古博物館歴史公園「伊勢国分寺まつり」
- 04.11.12 公民館文化祭 運営委員会主催サークル展示～13 発表会を共催
- 04.11.20 河曲地区一斉サテライト型防災訓練
- 04.12.20 広報誌「かわの」第11号発行
- 05.02.― 地区環境整備事業 第4回草刈り（同上）
- 05.03.10 河曲小学校防災訓練に物資補給支援で協力
- 05.03.20 広報誌「かわの」第12号発行

河曲地区地域づくり協議会広報紙

『広報かわの』 第9号 令和4年6月20日 発行
 発行責任者 河曲地区地域づくり協議会 事務局長
 事務局 河曲公民館内「地域部屋」 電059-390-1295

